

〔金沢周辺のウラミアカシジミ〕 嵯峨井 淳郎

ウラミアカシジミは、かつて石川県において稀種の一つであつたが、現在はかなり産地が見つかつてゐる。文献には、金沢市北部へ津幡町にかけて少くなくない*1とあるが、筆者の調査結果を記録しておきたい。調査範囲は限られてゐるが、今までのところ旧森本町の吉原町今泉所、松根町、中尾町、吾坂町(現在は県立松陵工高敷地内)からの産地は、壊滅)に生息を確認してゐる。本種の生息範囲は、食樹となるクヌギ*2の植林状況に関係してあり、他県の産地にみられるようミスナラ、コナラ等は、自然では食しづらいようであるが、医王山あたりには、アカシジミが多産するにもかかわらず本種が採集できぬのは、この原因だと思われ。

石川県内には、この他、加賀地方や、小松市へ辰ノ口町一帯に産地が点々とあると聞くが、これについては、松井正人、川瀬英夫の両氏の発表に委ねることとし、筆者は遠慮する。

富山県における本種は、文献類の確認をしていないのと言明はできないが、石川県に比べ、もっと産地が極限されるようである。石川県境の金沢市と連続する地点に点々とあると聞くが、筆者の調査では、福光町高瀬と御峰で成虫を得てゐる。また小矢部市との県境の倶利伽羅古戦場付近にも多産*3する。最近気がついたことであるが、金沢東インターより小矢部インター間の北陸高速道路沿線にクヌギ*2がかなり残つてゐるところからまだ富山側にも産地が見られるものとみられる。

*1 武藤 明 (1971) 石川虫の会 特別報告 62号 P5

*2 クヌギ — アハマキ?

*3 嵯峨井 淳郎 (1974) 蝶の新産地紹介 とくればち

26. 27号 P6

ネットをはったギフチョウ

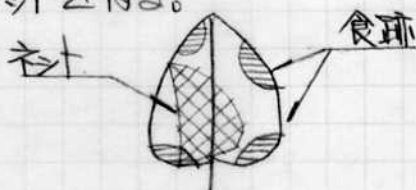
松井正人

白馬産ギフチョウの初令幼虫群の1グループがカンアオイの葉上にネットをはったので報告する。これは、1978年5月25日に白馬産の1子を用いて、同地のミヤマカンアオイに強制産卵させて得た卵より、孵化したものである。

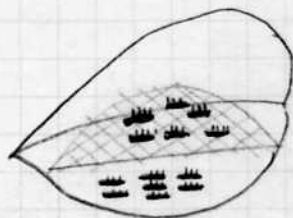
5月25日 30卵産卵



6月4日 28卵孵化 ネットをはる。



6月5日 葉は食いつくされネットは消えていた。



幼虫は2階立に住む

倉ヶ岳でミスジチョウを採集

吉村久貴

1972年6月12日 倉ヶ岳部落より 風吹峠へ 約500m 行った。林道路上で 日なたぼっこしていた。ミスジチョウex を採集した。路上で静止していたものに近づくと、少し逃げ、は止まりと云うことを、繰り返していたが、あまり活発に飛び様子ではなかった。
*倉ヶ岳部落は、既に入場氏によって産地としてあげられてい
るとのこと。

データ 1979年6月12日

倉ヶ岳部落付近

スキー場に於けるゼズルスの採卵

野中 勝

スキー場での採卵は、積雪により木登りせずに高い枝に手がとどく、リフトを利用すると苦勞せずに標高がかせげ、場所によっては、ブナ帯まで行ける等の利点を挙げていますが、以下に金沢に来て以来、2シーズンに訪れた県内外の、6つのスキー場での採卵結果を報告します。

1) 獅子峠高原スキー場 1979. 2月4日 雪

ロープウェイ終点付近の残雪の東側斜面を捜した。サクラマンサク、アオダモ類も少し見たが、収穫があったのは、ミズナラのみ。

- ・ダイセンシジミ 10卵
- ・アカシジミ 2卵
- ・ジョウザンシジミ 9卵 (以上3種ミズナラ)

2) 白山-里野スキー場 1978. 1月20日 曇一時晴

ホリリフトぞいは、針葉樹で望みなし。ホリリフト終点付近が、昔の低いミズナラがあって採卵しやすい。

- ・ジョウザンミドリシジミ
- ・アカシジミ 1卵
- ・アイノミドリシジミ (以上3種ミズナラ)

3) 白峰高原スキー場 1978. 3月21日 雪

ホリリフトを下りると、青柳山頂上(標高1,032m)付近に着くが、ここは、ブナ林になってホリフシジミの採卵を見つけた。吹雪がひどく、それ以上捜す気がせず、以後、林間コースぞいのミズナラを見た。

- ・ジョウザンミドリシジミ 11卵 (ミズナラ)

次のページへ続く

4) 極楽坂スキー場 1978. 3月21日 晴

オ4リフトの左側(山に向って)及び Gondolaski 場へ通じる上部の尾根に木が残っている。下にはフルミ、尾根には、ブナがかなりあったが、オナガも、フジも得られなかった。

- アイノミドリシジミ 13卵 (ミズナラ)
- ミズイロオナガシジミ 4卵 (ミズナラ)
- ショウサンミドリシジミ 約50卵 (ミズナラ)

5) 柵池スキー場 1978 2月19日 晴

鐘の鳴る丘ゲレンデの下のカシワ林で採卵した。以前に同じポイントでハヤシ、ダイセン、を採ったことがあるがこの時は、ウラジロミドリだけしか得られなかった。又、このスキー場の上部には、ブナが非常に多く、フジは、有望と思われる。

- ウラジロミドリシジミ 26卵 (カシワ)
- オナガシジミ 3卵 (オ=フルミ)

6) 八ヶ尾根スキー場 1979 3月 8,9日 共に晴

有名なリーゼンスラロームコースの上部左側に、ブナが残っており、フジが採れた。又、民宿街から深空方面に歩いて行くと、山ぞいに雑木林が、田んぼの所々にカシワがあり、比較的採卵しやすい環境だった。

- フジミドリシジミ 12卵 (ブナ)
- ウラキアシジミ 5卵 (アオダモの一種)
- ダイセンシジミ 4卵 (カシワ) 1卵 (ミズナラ)
- ウラジロミドリシジミ 11卵 (カシワ)
- *Falonius* sp? 1卵 (アオダモの一種)

次のページへ続く

スキー場採卵後記

- ・採卵数は、ルーへの観察により、冗もなくカラでない、認めらしたものを書いたが、被寄生卵も含んでおり、実際一里野、極楽坂のジョウザンミドリは、ほとんど全ての卵からハチが羽化した。
- ・八方のアオダモから得られた *Favonius* は、ミスナラで飼育し、2令になったが不注意でつぶしてしまった。ジョウザンミドリシジミでないことは、確認できたが、エンガハヤシカ不詳
- ・上文中ジョウザンミドリシジミとしたものは、卵により種を同定したわけではなく、羽化した個体が全てジョウザンミドリシジミであった。ことを示し被寄生卵中に他種の卵が含まれていた可能性も否定できない。

中宮のアサマシジミ

吉村 久貴

1979年 6月 2日、中宮へアサマシジミの幼虫を捜しに行った。松井氏の案内により、ナンテンハギと幼虫を確認した。

当日は、秩父道の帰り道で、時間もなく雷の鳴るすごい天候であったが、2匹採集した。幼虫は、いずれも終令であったが、寄生されてあり自宅へ持ち帰ったが、いずれも、ハエの蛹になった。

クワコムラサキ採集記

吉村 久貴

1979年 6月 10日、鳳至郡 門前町へクワコムラサキを採りに出かけた。同行したのは、松井、金平、西氏ハッ川沿いに、かなり連続的にヤナギがはえていたが、成虫も連続的に発生しているようで、捜した、4箇所すべて何頭づつかたが、採集できた。成虫の大部分は、クワコムラサキであったが、門前から冗水へ抜ける道を少し行った、所の、川沿にあるヤナギで普通のコムラサキがクワコムラ

サキと追飛しているのが、観察された。

筆者の門前での採集データ

クロコムラサキ	4♂♂ 1♀
コミスジ	1ex
ナミアゲハ	1♀
ヒメウラナミジャノ	1ex
キタテハ	2exx

目撃記録

モンキアゲハ	オナガアゲハ
キチョウ	モンキチョウ
コチャバネセセリ	アオスジアゲハ
コムラサキ	

Papilio 2種の採集記録

吉村 久貴

カラスアゲハと、オナガアゲハは 県内に広く、分布することは、既知であるが、1979年5月20日、この2種が、非常に多い場面に出くわしたので、ここに記しておきたい。国道157号線を河内小学校で左に折れればしばらく行くと板尾につく。板尾でさらに、左へ折れると、不動滝に行きつく。不動滝の滝っほ付近にも、吸水中のカラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハなどが見られるが、小板尾へ到着の方へ進む。右に渓流の流れる絶好の生息地である。しばらく、行った所から遡った、路上で、カラスアゲハが、ちへ10頭ずつかたまっている所に数ヶ所出合った。

時期がやや遅かったためか、ミヤマカラスは割とツなかつた。小板尾とモウ一方に列れる所に、マラジロガシの大木があるが、このあたりから、タウツギなどで、オナガアゲハが吸蜜しておりポイントで待っていると次から次へと飛んで来る。しばらく奥へ進んでみたが、吸水しているのは、カラスアゲハばかりで、オナガアゲハは見られなかった。

データ

1979.5.20. カラスアゲハ 7♂♂
オナガアゲハ 6♂♂

1979.5.24

カラスアゲハ
オナガアゲハ

1♂1♀
3♂♂

金沢市四坊、高取町におけるオオムラサキの行方

嵯峨井 彦郎

筆者は、独身時代この地(四坊、高取)での採集を、非常に好んだ。なぜならば、たがいの種類(今からみれば、普通種ばかり)は、ここで採集できたからである。

オオムラサキも、よくここで採集した。

1970年7月13日、太さ40cm程のエノキに静止中の、ピカピカの子を1頭採集してから、翌年よりこのエノキにオオムラサキの姿を見なくなつた。たゞ、一頭の子を採集した。ばかりに、乱獲王の烙印をおさめてしまった。

ミドリシジミ羽化前の鳴音発生について

嵯峨井 彦郎

筆者には、ミドリシジミの飼育経験が何回かある。飼育といつても、卵からやるような、めんどうなことをやらず、頭部に黒点のない(寄生のない)2~3令幼虫を採ってきて、たゞハンノキを与えるだけのズサンな方法で、簡単に蛹化し、簡単に羽化する。その折、気がついたことは、羽化前に、蛹を刺激すると、チツチツと音を発することだ。

ミドリシジミだけでなく、他のぜつ類(私の経験では、ミズイロオナガシジミ、ウラミアアカシジミ)も、同様な現象があるようだった。筆者は、この鳴音を聞くと羽化が、近いと判断することにしてゐる。

ミドリシジミ早の性斑

嵯峨井 彦郎

やはり本種の飼育を重ねるうちに、気がついたことだが、雌B型、AB型の青色性斑にほぼ、2型があることに気がついたが、これは、紫色系のウツミスシジミに近い青色とルーミスシジミに近い青色とである。

1974年度 沖縄採集旅行 採集蝶一覽 その4

松井 正人

— マダラチョウ科 —

リュウキュウアサギマダラ、略してリュウアサです。これは、全くの凡蝶です。しかし、いつの間にか、採り過ぎしてしまうのです。迷蝶への誘いが変わるのです?!

カバマダラ以外は、どこでもたくさん居るんです。オオゴマダラは、ホロが多かったです。

1) カバマダラ	1♂	Ⅷ.15	沖縄本島	源河川
	1♀	Ⅷ.14	石垣島	川平
	1♀	Ⅷ.17	西表島	干立

2) スジグロカバマダラ

8♂♂4♀♀	Ⅷ.8	石垣島	バンテオ
1♂	Ⅷ.9	"	"
1♀	Ⅷ.12	与那国島	犬座鼻
1♂	Ⅷ.13	"	"
Zexu	Ⅷ.13	"	比川

3) リュウキュウアサギマダラ

1♀	Ⅷ.6	沖縄本島	マナー
2♂♂3exs	Ⅷ.8	石垣島	バンテオ
1♂5exs	Ⅷ.9	"	"
5exs	Ⅷ.14	"	川平
1♂1♀	Ⅷ.15	西表島	祖納
1♂	Ⅷ.16	"	カンテウ
1ex	Ⅷ.17	"	祖納
1♂lex	Ⅷ.18	"	干立
1♂	Ⅷ.19	"	白浜
1ex	Ⅷ.20	"	"
1ex	Ⅷ.12	与那国島	犬座鼻

4) オオゴマダラ

1♀Zexu	Ⅷ.14	石垣島	川平
1♂	Ⅷ.17	西表島	干立
1♀	Ⅷ.19	"	祖納
1♂	Ⅷ.25	"	バンテオ
1♀Zexu	Ⅷ.12	与那国島	犬座鼻
1♂Zexu	Ⅷ.13	"	"

北海道のリンゴシジミとオオイチモンジ

井村 正行

1979年 7月15日 北海道愛山溪に、おいて、リンゴシジミ2頭採集、他1頭目撃。
リンゴシジミは、ゴトウズルの花に吸蜜に来ており、時刻は、3時ごろだったと思う。

1979年 7月15日 北海道愛山溪において、十頭位のミヤマカラスアゲハに混って一頭のオオイチモンジが、吸水に来ていたが、残念にネットに入れて逃がした。他一頭、林の上を飛ぶものを目撃

1979年 7月16日 北海道十勝三股においてオオイチモンジの2頭採集、他3頭目撃

オオイチモンジを採集したのは、十勝三股の汽摩の停車場跡より林道に入って、30分位、車で走った伐採現場近くでオオイチモンジは、道路に落ちて飛んでいたものが3頭うち1頭採集、道路より1m位の高さのところを、いすいも、道路に落ちて飛んできた。他1頭採集したのは、道路上の乾いた藁に来ていたものを採集した。時刻は、やはり3時ごろで、20分位の箇のことでした。カシキリ採集が目的であったので、時間をついやしてはなりません。個体数はかなり多いのでは？

他めばしいところでは、ヨモギに止っていたカラフトムカネキマダラセセリlexとシロオビヒメヒカゲlexを採集した。

採集品は、ほぼ見本のものばかりです。

ミスジチョウ、ウスバシロチョウ、ウラゴマダラの

産地確認追加

井村 正行

白山	鳴谷峠付近	1979.07.17	ミスジチョウ	井村 採集
白山	新道入道付近	1979.07.10	ウスバシロチョウ	〃
白山	〃	1979.07.23	ウラゴマダラ	川瀬 〃 (確認)

目 次

・金沢周辺のウラテミアカシジミ	-----	嵯峨井	淳郎	1
・ネットを飛、たぎつちゅう	-----	松井	正人	2
・倉ヶ岳でミスジチョウを採集	-----	吉村	久貴	2
・スキー場に於けるゼネルス採卵	-----	野中	勝	3・5
・中宮のアサマシジミ	-----	吉村	久貴	5
・クロコムラサキ採集記	-----	吉村	久貴	5・6
・Papilio 2種の採集記録	-----	吉村	久貴	6・7
・金沢市四ヶ高取町におけるオムラサキの飛行	-----	嵯峨井	淳郎	7
・ミドリシジミ羽化前の鳴音発生について	-----	嵯峨井	淳郎	7
・ミドリシジミ子の性差	-----	嵯峨井	淳郎	7
・1974年度沖籠採集旅行採集蝶一覧表4	-----	松井	正人	8
・北海道のリンゴシジミとオオイモシジミ	-----	井村	正行	9
・ミスジチョウ、ウスバシロチョウ、ウラゴマチョウの産地	-----	井村	正行	9

確認追加

— 編集後記 —

No.6のいき上りが大変遅くてもうしわけなく
 思っています。シーズンも終番、そろそろ秋風が吹
 き初め、忙しかったシーズンの標本整理に、
 皆様かかり始めたのでは、ないでしょうか。
 ここで編集の方より、会員各様に、お願がある
 のですが、他にもありませんか。原稿の方が、底を
 つき始めたので、このシーズンの活躍された、採集
 記などを、松井正人氏まで出してもらえないでしょ
 うか。

最後に、原稿用紙に編集するなどということは、
 生れて初めてなので、何か読みづらいところと
 きたなさは、ごかんげんを。

— 井村 記 —

翔 No.6

1979. VII

発行：金沢市三〇新町4-9-34 松井 正人 方

百万石蝶談会

編集：井村 正行